

# エピソード記憶再構成における場所プライミングが時間順序判断に与える効果

1250306 金城 凜香

【 認知神経科学研究室 】

## 1 はじめに

エピソード記憶とは個人が経験した出来事の記憶のことである。エピソード記憶を想起するとき、いつ、どこで、といった時間や場所などを文脈として、想起している。その際、場所を手掛かりとして時間の再構成を行っていると考えられている。本実験では、場所プライミングを行うことで、エピソード記憶再構成における順序判断課題のパフォーマンスに影響を与えるのか検証した。プライミングとは先行刺激が後続刺激の処理に影響を与える効果のことをいい、場所を先行刺激としたものを場所プライミングとした。

## 2 実験方法

### 2.1 被験者

複数回の予備実験、及び本実験を実施し、合計41名の被験者が参加した。そのうち本実験に参加した11名(男性6名、女性5名、19~29歳)を解析の対象とした。

### 2.2 実験手順

シーケンス課題、計算課題、順序判断課題の連続する3種類の課題を1セッションとし、4セッション行った。シーケンス課題では被験者にあるシーンの中にオブジェクトが置かれた画像を提示した(図1)。画像は15枚提示し、画像が提示された順番を記憶してもらった。



図1 シーケンス課題

計算課題では10以内の加算または減算を行い、正しい答えを選択してもらった。順序判断課題はA、Bの2条件の提示方法で行った。Aではあるシーンを提示してから、シーケンス課題で提示したオブジェクトのうち2つを提示した(図2)。この条件をPriming条件とした。また、提示したシーンとオブジェクトの組み合わせが、シーケンス課題で提示された画像のシーンとオブジェクトの組み合わせと一致している場合をcongruence(以下Cong)、一致していない場合をincongruence(以下InCong)とした。Bではグレーの四角形を提示してから、シーケンス課題で提示したオブジェクトのうち2つを提示した(図3)。この条件をNo-Priming条件とした。提示された2つのオブジェクトのシーケンス課題における順番は、2つ、4つ、6つの間隔の差があるものが提示されるようにした。以上の条件で提示された2つのオブジェクト

で、時間的により先に見たオブジェクトを選択してもらった。



図2 順序判断課題 (Priming 条件)

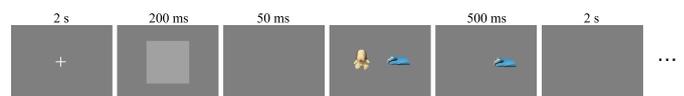


図3 順序判断課題 (No-Priming 条件)

### 2.3 解析

データ解析にはjamoviを使用した。順序判断課題の正答率と反応時間を3つの提示条件(Cong, InCong, No-Priming)でそれぞれ平均値を求めた。また、その平均値の有意差を検討するために分散分析を行った。

## 3 実験結果

3つの提示条件(Cong, InCong, No-Priming)で解析した結果が図4である。正答率はCong, InCong, No-Primingのいずれの条件でも、有意な差は見られなかった( $p = 0.331$ )。反応時間も同様にCong, InCong, No-Primingのいずれの条件でも、有意な差は見られなかった( $p = 0.702$ )。

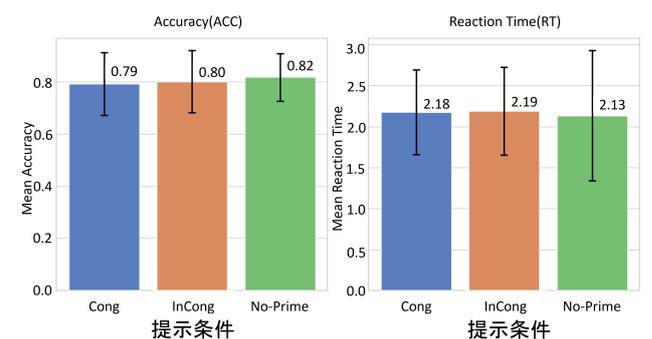


図4 各提示条件における結果

## 4 考察・まとめ

本実験では、提示条件の主効果が見られなかった。このような結果から、場所プライミングはエピソード記憶再構成における順序判断課題のパフォーマンスにおいて影響を与えることはないということが示唆された。